

平和公園 開園式 お礼の言葉

八七会 副会長 森田和夫
平成30年6月9日

遠い遠い73年も前の出来事でした。

8月7日の空襲により死傷者の救護、そして片付作業など、もう1週間、10日も早く戦争が終わっていたなら・・・と悔やまれてなりません。まさに阿修羅・地獄絵そのもの、眼をそむけたくない状態でした。この惨状を思うとき、前途ある子どもさん達にこのような体験をさせることは出来ません。

この戦場であった地に、豊川市のお骨折りにより、この様な立派で美しい平和公園ができうれしく思います。設立にご尽力くださった皆様方に「八七会」の一員として感謝を申し上げ、早速供養塔に眠る仲間たちに報告します。



平和交流館



遊具広場



第三信管置場



第一火薬庫

編集後記 第6代会長の大石辰己さんは、戦争体験を70年間、ご家族にも語ることなく過ごしてこられました。戦後70年を迎えたころ、重い口を開き、豊川での体験を語り始めたそうです。当時のことを思い出すたびに、涙がふれるご様子でした。私たちがお聞きした想いを後世に伝えていきたいとあらためて思いました。

「八七会の思い出」リーフレット

編集:「八七会の思い出」編集委員会 伊熊憲世・伊與田千鶴子・片桐孝子・南智江子・伊藤小友美

発行:八七会 写真上段左より 森田和夫・白井三郎・村瀬芳三・今泉俊昭

下段左より 鳥山孝義・故 大石辰己・山本輝雄

協力:豊川市 桜ヶ丘ミュージアム 豊川海軍工廠平和公園 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター

参考文献:『豊川海軍工廠の記録 陸に沈んだ兵器工場』 編集:株式会社 スタンバイ(代表取締役 水谷真理)

『豊川海軍工廠の記録 陸に沈んだ兵器工場 第二刷復刻改訂版』 編集:これから出版

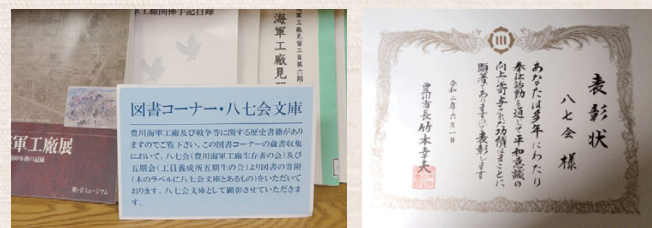
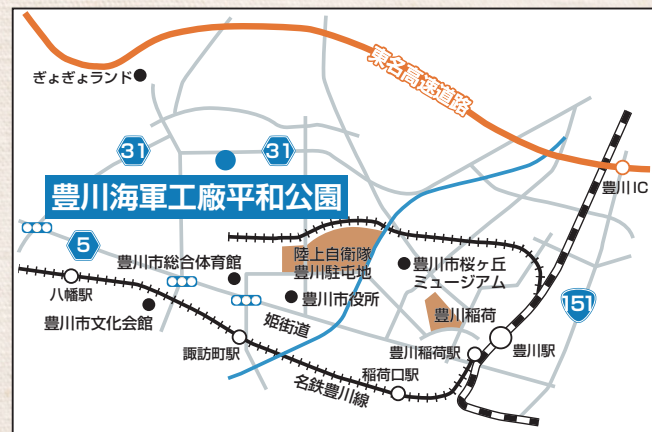
デザイン・印刷:(株)東海共同印刷

[発行:令和2(2020)年8月7日]

◆✧✧✧ いただいたご縁に深く感謝申し上げます。 ◆✧✧✧

豊川海軍工廠平和公園のご案内

かつて東洋一の兵器工場とも称された豊川海軍工廠があった場所で、昭和20(1945)年8月7日の空襲で二千五百人以上が犠牲となるなど、悲しい歴史を刻んだ場所でもあります。公園内には、歴史の生き証人である海軍工廠の火薬庫や信管置場などの戦争遺跡や海軍工廠の歴史などを紹介する平和交流館があります。この公園を訪れ過去の歴史を学び、平和の尊さについて考えてみませんか。開園以来訪れた方は10万人を超えています。



八七会文庫



(令和元年6月20日撮影)

八七会の思い出

地域の皆様、八七会(はちななかい)の皆様、ご遺族様には、八七会の活動にご協力を頂き、感謝申し上げます。

八七会においては、昭和32年の結成以来、空襲犠牲者の供養活動を続けてきましたが、時の流れには逆らえず、高齢化等により活動が続けることが困難な状況となり、会の活動は令和2年8月7日をもって終了し、以後は供養塔の管理も含め、妙厳寺に永代供養をお願いすることといたしました。よって来年以降の慰霊祭は、供養塔前では行われません。これまでのご支援に感謝申し上げますとともに、なにとぞ、ご理解賜りますようお願い申し上げます。八七会の活動としては、令和2年8月7日をもって終了しますが、会については豊川海軍工廠生存者がいる限り存続するものとします。

このたび活動終了にあたり、このリーフレットを発行することとなりました。お手元に置いていただき、あらためて歴史を振り返るよすがとしていただければ幸いです。また、ご家族やご友人と平和について語り合うきっかけにいただければうれしく存じます。未来永劫平和な世界が続きますように(写真は令和元年8月7日の供養塔)。



豊川海軍工廠とは

豊川海軍工廠は、日中戦争から太平洋戦争へと戦局が進む昭和14(1939)年12月15日、全国で6番目の海軍工廠として開庁しました。海軍の航空機や艦船などが装備する機銃とその弾丸を主要な生産品とし、最盛期には5万人以上の人々が働く巨大兵器工場でした。しかし、昭和20年8月7日の空襲で壊滅的な被害を受け、そして終戦により兵器工場としての短い歴史を終えました。戦後、空襲の悲劇は、悲しい出来事として多くの人々の記憶に残り、語り継がれてきました。



工員養成所教練

写真提供:桜ヶ丘ミュージアム



空襲による惨状

被爆75周年に寄せて 八七会のあゆみ

遺族の悲しみは尽きることを知りません。終戦後直ちに、遺族によって諏訪墓地にお墓や供養塔が建てられました。毎年8月7日、豊川稲荷の北西にある供養塔の前には朝から慰霊の人々が集まり、「あの日も今日のように暑く、セミが鳴いていた」と線香をたき、刻まれた犠牲者の名前を撫でる参拝者の光景を目にすることができます。遺体も遺骨も引き取っていない遺族にとって、お名前だけでも刻まれていることは、せめてもの慰めでした。

当時共済病院総婦長であった後田しのさんの手記『八七会の由来』にあるように、「共済病院にあった『みどり会』が犠牲者の供養を七回忌まで豊川稲荷で行ってきました。しかしその後、看護婦だけでおこなうのではなく、十三回忌から工場全従業員で行うように呼び掛けた」ことが八七会の始まりです。八七会は昭和32年8月7日の十三回忌に約3千名の遺族が集まったのを契機に結成され、遺族への連絡、慰霊祭の開催などを行っていく民間団体として活動してきました。

海軍工場の犠牲者は日本全国にいます。当初はその方々の名簿も連絡先もありませんでした。各市町村の遺族会から名簿を借りて、その名簿から工場の戦没者だけを探しだし、遺族に通知するということから始めました。そして戦後75年の今日まで、供養塔の清掃と周辺の整備を中心に活動を行ってきました。活動を分類しますと次のようなものになります。



平和の像

- 供養行事…供養塔の清掃、整備。8月7日の慰霊祭、春秋彼岸供養、年末供養等。
- 語り部としての活動…体験談を語る活動、報道機関に協力、経験を語り継ぐ活動。
- 工場と空襲の記録を残す活動…ビデオや出版物を製作。
- 記念館建設にむけて…桜ヶ丘ミュージアム、豊川海軍工場平和公園の建設、展示に協力。

昭和56年、当時の柴田司郎会長は八七会幹部の高齢化を心配し、工員養成所出身者で結成する豊養会（会長 豊田英男）に、八七会の運営に協力することを要請しました。翌昭和58年の八七会総会で、工員養成工4期生であった彦坂実氏が第5代会長に就任しました。

戦後60周年を機に、慰霊祭の縮小を行いました。以後も毎月7日、20日の清掃供養、各祭礼日の供養は欠かさず行われました。平成21年6月に26年間にわたり会長を務められた彦坂実氏が亡くなられ、次期総会で副会長であった大石辰己氏が第6代会長に就任しました。

平成25年度、豊川市平和公園整備検討委員会が開催され、平成26年5月に基本構想が策定されました。八七会としては、悲惨な体験、平和への想いを語ることで、語り継ぎボランティアの養成に協力し、開園にあたっては、放送設備、八七会文庫として資料・書籍等を寄贈しました。平成30年6月9日の開園記念式典では、動員学徒・養成工員の日記朗読が地元の中学生によって行われ、そのお礼の言葉を副会長の森田和夫氏が述べました。

令和元年9月に第6代会長の大石辰己氏が急逝、最も若い会員でも90歳前後となり会の活動がより困難な状況となり、令和2年8月7日をもって、会の活動を終了することを決めました。令和2年6月には豊川市より、奉仕活動を通じて平和意識の向上に寄与したとして表彰状をいただきました。

『豊川海軍工場展 巨大兵器工場―終戦60年後の記録』より

編集・発行:桜ヶ丘ミュージアム 平成17年7月23日発行

八七会 六十年のあゆみ 八七会 会長(第5代) 彦坂 実

時の流れには逆らえず早や六十年、八七会員の皆様、ご遺族様には、終戦から六十年にわたり、陰になり、日向になり、八七会にご協力を頂きました事を、ここに改めて感謝申し上げます。

皆様には昭和二十年八月七日元豊川海軍工場の被爆体験手記や、それぞれの立場からの証言、手記など

が、数多く出版されたものを読まれました事と思われます。その空襲体験者も六十年の長い歲月には勝てず、年と共に数少なくなり戦争や空襲の悲しい出来事が、忘れられようとしています、心配でなりません。

私も十六歳である豊川海軍工場大空襲の悲惨な光景を体験致しました。それは皆様の想像の世界を越えた、地獄の世界でありました。私は運よく平尾小学校に疎開していて難を逃れました。私の本工場も丸焼けで所属していた指揮兵器部だけでも、百二十二名の犠牲者をだしました。六十年過ぎてもただ悲しさだけが残ります。

この被爆により二千五百有余の犠牲者をだし、そして一般市民も百四十一名も巻き添えとなり犠牲にられました。このような一般市民の犠牲は広く知られておりません。犠牲者の多くが幼い子供や、これからの日本を担う若い青年でありましたのが、残念でなりません。(中略)

昨年(平成十六年)平成十七年八月七日、六十周年の慰霊祭をもって終りにしたい旨の挨拶状を、慰霊祭の参列者にお配りしました。この決断は涙のでる思いで、後継者のいない八七会では止むをえない決断です。残念でなりません。今後は地元会員で供養塔の清掃、犠牲者の供養と、悲惨な空襲体験をいつまでも語り継いで行きたいと思います。

シンポジウム「平和公園と豊川海軍工場の語り継ぎ」より 平成30年6月24日

八七会 会長(第6代) 大石辰己

平成22年、八七会の役員会で、公園を造る計画があるとされてびっくり、本当に真から嬉しいなあという実感でございました。9日の開園式に参加させていただきましたけれど、本当に感激いたしました。火薬庫、第三信管置場、あの変わった姿、まさに平和の象徴でございます。私たち八七会としましても会員も本当に少なくなりました。だから何をする、こうするということはできません。が、語り継いでいくこと、この公園をみなさんに紹介することはしたいと思っています。現地に公園ができたのは、広島と長崎、それから豊川だけだそうです。

《主な活動》

昭和20年	供養塔地鎮祭	平成5年	海軍工場の歌テープ作成
昭和21年	供養塔完成	平成6年	ひめゆり同窓会と交流
昭和32年	八七会結成	平成7年	「豊川海軍工場の記録」 (被爆50周年)発行
昭和40年	平和の像完成	平成17年	慰霊祭の縮小
昭和53年	供養塔前灯笼製作	平成24年	豊川稲荷豊川閣妙厳寺に 永代供養料奉納
昭和57年	供養塔由来再建	平成27年	「豊川海軍工場の記録」(被爆 70周年)第二刷復刻改訂版発行
昭和58年	由来記念碑再建	平成30年	豊川海軍工場平和公園開園
昭和60年	供養塔前 石碑建立	令和元年	豊川市より感謝状を贈呈される
昭和61年	韓国人遺族招待	令和2年	豊川市より表彰状を授与される 供養塔の整備
昭和62年	豊川空襲殉職者名鑑出版		
平成元年	戦没者県別地図石碑建立		
平成3年	「工場歌」テープ作成		
平成4年	工場内火工部跡 名古屋大学 太陽地球環境研究所構内 空襲爆弾跡の調査 記録ビデオ作成		

